

Oracle® Server X5-8 Windows オペレー ティングシステムインストールガイド



Part No: E65057-01
2015 年 7 月

Part No: E65057-01

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの用法	7
Microsoft Windows オペレーティングシステムのインストールについて	11
Windows OS のインストールのタスクマップ	12
サポートされている Windows Server オペレーティングシステム	13
Windows Server 2012 または 2012 R2 用の大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA	13
コンソール表示オプションの選択	14
コンソール表示オプション	14
▼ ローカルコンソールを設定する	15
▼ リモートコンソールを設定する	15
ブートメディアオプションの選択	16
ブートメディアオプションの要件	17
▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する	18
▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する	18
インストール先オプションの選択	23
インストール先オプション	23
▼ ローカルストレージドライブ (HDD) をインストール先として設定する	24
▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する	24
Windows Server OS のインストールオプション	24
単一サーバーのインストール方法	25
Windows Server OS の補助付きインストール	26
Windows Server OS の手動インストール	26
Windows 展開サービスの OS インストール	26
Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備	27
ブート環境の準備	27
▼ ブートモードを設定する	28

RAID の構成	32
Windows Server オペレーティングシステムのインストール	33
関連情報	33
始める前に	33
Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2012 または 2012 R2 の単 一システムへのインストール	34
▼ Oracle System Assistant を使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を単一システムにインストールする	35
Windows Server 2012 または 2012 R2 の単一システムへの手動でのインストー ル	39
▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を手動でインストールする	39
▼ PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする	59
Windows Server のインストール後のタスク	65
追加ソフトウェアコンポーネントオプション	65
デバイスドライバと追加ソフトウェアの手動でのインストール	66
▼ サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストー ルする	67
Intel NIC チーミングの構成	68
索引	71

このドキュメントの使用方法

- **概要** – このインストールガイドには、Windows Server オペレーティングシステムをインストールするための手順と、Oracle Server X5-8 を構成可能かつ使用可能な状態にするための初期のソフトウェア構成手順が含まれています。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、認定サービスプロバイダ、およびユーザー。
- **必要な知識** – オペレーティングシステムをインストールした経験。

このセクションでは、Oracle Server X5-8 用の最新のファームウェア、ソフトウェア、およびドキュメントを入手する方法について説明します。また、フィードバック用のリンクおよびドキュメントの変更履歴も提供されています。

- [7 ページの「Oracle Server X5-8 モデルの命名規則」](#)
- [7 ページの「最新のファームウェアとソフトウェアの入手」](#)
- [8 ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [8 ページの「寄稿者」](#)
- [8 ページの「変更履歴」](#)

このドキュメントセット内の情報は (オンラインヘルプと同様の) トピックに基づいた形式で提供されているため、章、付録、セクション番号などは含まれていません。

Oracle Server X5-8 モデルの命名規則

Oracle Server X5-8 の名前は、次のものを識別します。

- X は、x86 製品を識別します。
- 最初の数字 5 は、サーバーの世代を識別します。
- 2 番目の数字 8 は、プロセッサの最大数を識別します。

最新のファームウェアとソフトウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連のソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは、次の 3 つの方法のいずれかで入手できます。

- Oracle System Assistant: これは、工場出荷時にインストールされる Oracle x86 サーバー用のオプションです。これは必要なすべてのツールとドライバを含んでおり、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブ上に存在します。
- My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) から更新をダウンロードできます。
- 物理メディアのリクエスト: My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD を要求できます。サポート Web サイト上の「問合せ」リンクを使用してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://docs.oracle.com
Oracle Server X5-8	http://www.oracle.com/goto/X5-8/docs-videos
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)。Oracle ILOM のドキュメントを参照してください。	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack。『プロダクトノート』に一覧表示されている、サポートされているバージョンの Oracle Hardware Management Pack のドキュメントを参照してください。	http://www.oracle.com/goto/ohmp/docs

このドキュメントについてのフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> にお寄せください。

寄稿者

主著者: Michael Bechler、Cynthia Chin-Lee、Mark McGothigan。

寄稿者: William Schweickert、Anthony Villamor、Mick Tabor、Richard Masoner、Ray Angelo、Tamra Smith-Wasel、Denise Silverman。

変更履歴

このドキュメントセットのリリース履歴を次に示します。

- 2015 年 7 月。初版。

Microsoft Windows オペレーティングシステムのインストールについて

このセクションでは、サーバーに新しい Microsoft Windows Server 2012 または 2012 R2 オペレーティングシステム (OS) をインストールするための概要について説明します。

説明	リンク
Windows オペレーティングシステムのインストール手順を確認します。	12 ページの「Windows OS のインストールのタスクマップ」
サポートされている Windows オペレーティングシステムを確認します。	「Supported Operating Systems」 in 『Oracle Server X5-8 Product Notes』
SAS HBA のストレージドライバの要件を確認します。	13 ページの「サポートされている Windows Server オペレーティングシステム」
コンソール表示オプションとそれらの設定方法を確認します。	13 ページの「Windows Server 2012 または 2012 R2 用の大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法を確認します。	14 ページの「コンソール表示オプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法を確認します。	16 ページの「ブートメディアオプションの選択」
オペレーティングシステムのインストールオプションを確認します。	23 ページの「インストール先オプションの選択」
Oracle System Assistant を確認します。	24 ページの「Windows Server OS のインストールオプション」
	「Oracle System Assistant」 in 『Oracle X5 Series Servers Administration Guide』

関連情報

- [33 ページの「Windows Server オペレーティングシステムのインストール」](#)

Windows OS のインストールのタスクマップ

次の表は、Windows Server オペレーティングシステムをインストールするための手順の一覧と説明を示します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	■ 「Install the Server into the Rack」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』 ■ 「Cabling the Server」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』 ■ 「Connecting to Oracle ILOM」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』
2.	プロダクトノートを確認します。 サーバーでサポートされている Windows Server のバージョンを確認します。	■ 『Oracle Server X5-8 Product Notes』 ■ 「Supported Operating Systems」 in 『Oracle Server X5-8 Product Notes』 13 ページの「サポートされている Windows Server オペレーティングシステム」 ■ http://www.oracle.com/goto/X5-8/docs-videos にある『Oracle Server X5-8 プロダクトノート』
3.	Windows Server インストールメディアを入手します。	■ http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx
4.	インストールを実行するために使用するコンソール、ブートメディア、およびインストール先を設定します。	■ 14 ページの「コンソール表示オプションの選択」 ■ 16 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 23 ページの「インストール先オプションの選択」
5.	BIOS を確認し、必要に応じて構成します。	■ 27 ページの「ブート環境の準備」
6.	Windows Server オペレーティングシステムをインストールします。	■ 35 ページの「Oracle System Assistant を使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を単一システムにインストールする」 ■ 39 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を手動でインストールする」 ■ 59 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする」
7.	インストール後のタスクを実行します (該当する場合)。	■ 65 ページの「Windows Server のインストール後のタスク」

関連情報

- [27 ページの「Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備」](#)

サポートされている Windows Server オペレーティングシステム

Oracle Server X5-8 は、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

Windows OS	エディション
■ Windows Server 2012	■ Standard Edition ■ Datacenter Edition
■ Windows Server 2012 R2	■ Standard Edition ■ Datacenter Edition

注記 - Windows Server オペレーティングシステムの最新のすべての要件については、<http://www.oracle.com/goto/X5-8/docs-videos> にある最新バージョンの『Oracle Server X5-8 Product Notes』を参照してください。

さらに、サポートされているその他の任意のオペレーティングシステムまたは仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールできます。Windows ハードウェア互換リスト (HCL) は、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムバージョンを識別します。Oracle Server X5-8 でサポートされている Windows の最新バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。

<http://www.windowsservercatalog.com/>

関連情報

- 33 ページの「Windows Server オペレーティングシステムのインストール」
- 「Supported Operating Systems」 in 『Oracle Server X5-8 Product Notes』

Windows Server 2012 または 2012 R2 用の大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA

次の表は、このドキュメントの発行時点で Oracle Server X5-8 でサポートされている SAS 外部 PCIe ホストバスアダプタ (HBA) オプションを示しています。この SAS 外部 PCIe HBA がサーバー上に構成されているときに Microsoft Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする場合は、Windows Server 2012 または 2012 R2 オペレーティングシステムのインストール時に HBA 用の大容量ストレージドライバをロード

する必要があります。この大容量ストレージドライバは、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブで使用できます。

表 1 大容量ストレージドライバを必要とする、サポートされている SAS PCIe HBA

サポートされている SAS PCIe HBA	モデル番号	インストール中に必要なドライバ
Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe 外部 HBA	7110118/7110119	LSI アダプタ、SAS3 3008 Fury-StorPort (LSI_SAS3.INF)

Windows Server 2012 または 2012 R2 のインストール中に大容量ストレージドライバをロードする手順は、[39 ページの「Windows Server 2012 または 2012 R2 の単一システムへの手動でのインストール」](#)に示されています。

サーバーに内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブが搭載されていない場合は、ドライバを含む ISO イメージをダウンロードできます。ダウンロード手順については、[「Getting Server Firmware and Software」](#) in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide』を参照してください。

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- [14 ページの「コンソール表示オプション」](#)
- [15 ページの「ローカルコンソールを設定する」](#)
- [15 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) と 4 つの外部 USB コネクタのいずれかに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

また、サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. ローカルコンソールを接続するには、次のいずれかを行います。
 - 端末をシリアル管理ポート (SER MGT) に直接接続するか、または端末エミュレータ経由で接続します。

注記 - シリアル管理ポートのデフォルトのボーレートは 9600 ボーです。

- VGA モニター、キーボード、およびマウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。
2. シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには、次のようにします。
 - a. Oracle ILOM のユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root であり、パスワードは changeme です。
 - b. Oracle ILOM ログインプロンプトで、次を入力します。
-> `start /HOST/console`

シリアル管理ポート出力は、サーバーのホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ

▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または確立します。
コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースを使用して Oracle ILOM にリモートでログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP) の IP アドレスを知っている必要があります。手順については、[「Modify Network Settings From the](#)

[Oracle ILOM Web Interface](#) in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide』を参照してください。

2. **Web** ベースのクライアント接続を使用している場合は、この手順を実行します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
 - a. **Web** ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。
 - b. **Oracle ILOM Web** インタフェースにログインします。
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は **root** であり、パスワードは **changeme** です。
Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。
 - c. **Oracle ILOM** リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動することによって、ビデオ出力をサーバーから **Web** クライアントにリダイレクトします。
3. **SSH** クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。
 - a. 端末ウィンドウのシェルコマンド行から、サーバー SP への **SSH** 接続を確立します。「**ssh root@hostname**」と入力します。
ここで、*hostname* にはサーバー SP の DNS 名または IP アドレスを指定できます。
 - b. **Oracle ILOM** にログインします。
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は **root** であり、パスワードは **changeme** です。
 - c. シリアル出力をサーバーから **SSH** クライアントにリダイレクトします。次のように入力します。
-> **start /HOST/console**

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ

ブートメディアオプションの選択

ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートすることによって、サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始できます。このセク

ションでは、サポートされているメディアソースと各ソースのセットアップ要件について説明します。

- [17 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [18 ページの「ローカルインストール用のブートメディアを設定する」](#)
- [18 ページの「リモートインストール用のブートメディアを設定する」](#)

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [17 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)
- [17 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアの場合は、サーバーの内蔵ストレージデバイス、またはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります。

- DVD-ROM インストールメディア
- USB リムーバブルフラッシュドライブメディア

リモートブートメディアの要件

リモートメディアでは、ネットワーク経由でインストールイメージをブートする必要があります。リダイレクトされたブートストレージデバイスか、または Pre-Boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク経由で ISO イメージをエクスポートする別のネットワークシステムからインストールを開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものが含まれます。

- DVD-ROM インストールメディア、およびリモートの USB リムーバブルフラッシュドライブインストールメディア
- DVD-ROM インストールメディア、およびローカルに接続された USB DVD ドライブ
- 仮想リダイレクション用に設定されたネットワーク上の場所で使用できる DVD ISO イメージ

- サーバーのサービスプロセッサ (SP) 上にマウントされた DVD-ROM インストールメディアイメージ
インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。または、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。
- 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)。サポートされている Windows Server オペレーティングシステムの PXE ネットワークインストールを実行する手順については、59 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする」を参照してください。

▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、Windows Server OS インストールメディアを含むストレージデバイスをサーバーに挿入する必要があります。

1. **Linux OS インストールメディアを含む外付けの USB DVD ドライブをサーバーの外部 USB ポートに挿入します。**

注記 - サーバーの外部 USB ポートの場所については、「[Server Features and Components](#)」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』を参照してください。

2. **Linux OS インストールメディアを含む外付けの USB フラッシュドライブをサーバーの外部 USB ポートに挿入します。**

▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して、リモートの場所をソースとするメディアから OS をインストールするには、次の手順を実行します。

1. リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、この手順を実行します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
 - a. **OS ブートメディアをマウントまたは認識させてアクセスできるようにします。**
例:

- **DVD-ROM の場合は**、リモートシステム上の内蔵または外付けの DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
- **DVD-ROM ISO イメージの場合は**、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに使用可能であること、またはサーバーのサービスプロセッサ (SP) にマウントされていることを確認します。

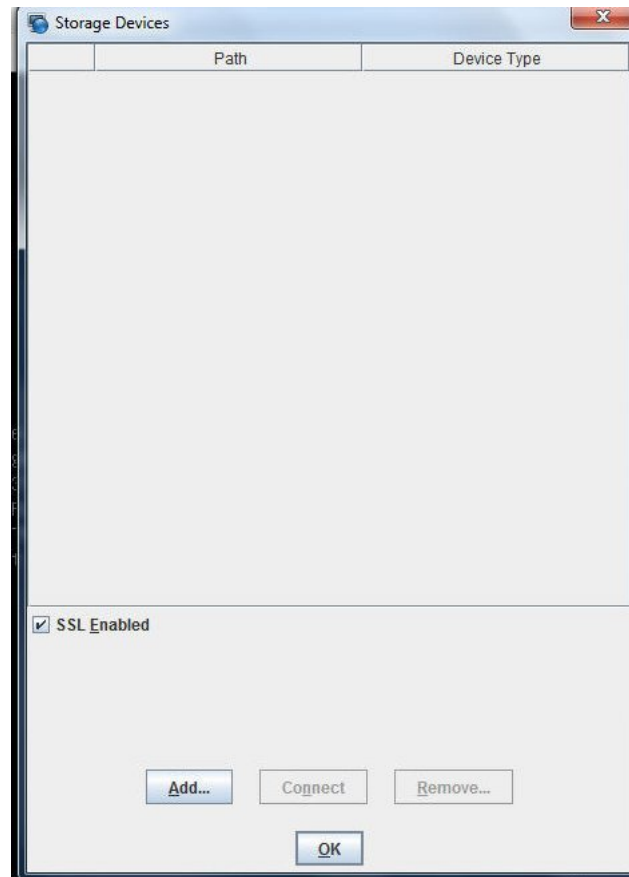
インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。または、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

2. サーバーの Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動します。

詳細は、14 ページの「コンソール表示オプションの選択」に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。

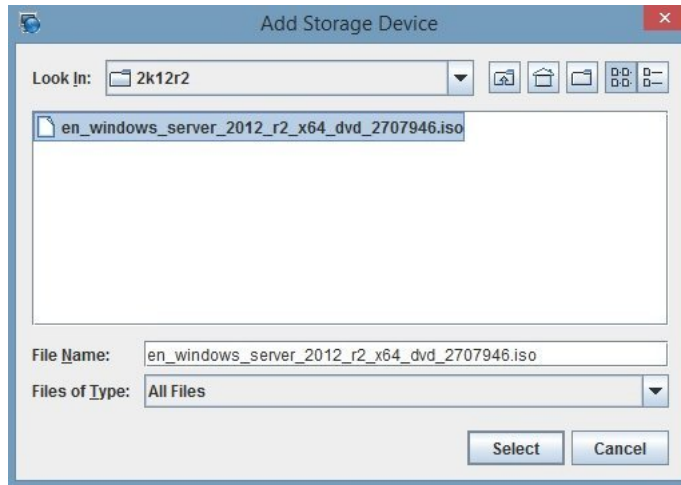
3. リモートコンソールで、次の手順を実行します。
 - a. 「KVMS」をクリックして、「KVMS」ドロップダウンメニューを表示します。
 - b. 「Storage」をクリックします。

「Storage Devices」ダイアログが表示されます。



- c. 「Storage Devices」ダイアログで、「Add」をクリックします。

「Add Storage Device」ダイアログが表示されます。



- d. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。

「Storage Devices」画面が表示され、ISO イメージが一覧表示されます。

- e. ISO イメージを選択し、「Connect」をクリックします。

ISO イメージがリモートコンソールにマウントされ、OS インストールの実行に使用できるようになります。

4. PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。

インストールのセットアッププロセスを自動化する詳細な手順については、Windows オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

- a. PXE を使用して Windows オペレーティングシステムをインストールするように Windows 展開サービスを構成します。

Windows オペレーティングシステムをエクスポートするように PXE サーバーを構成します。

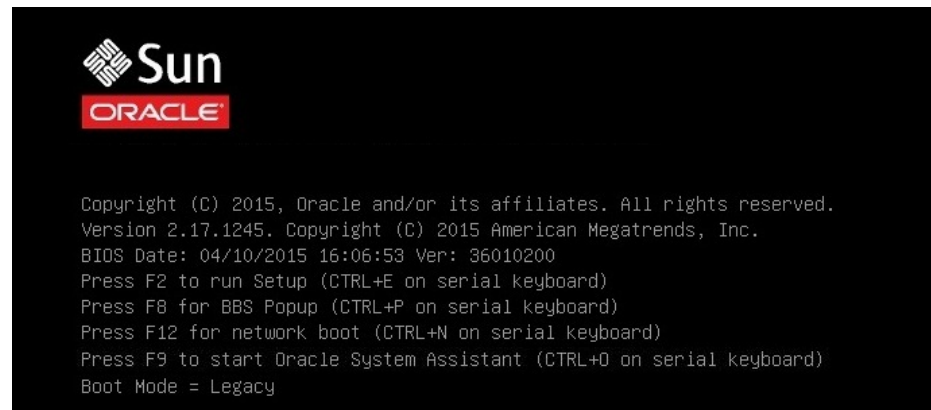
自動 OS インストールイメージを使用する場合は、自動 OS インストールイメージを作成して提供します。

- b. インストールメディアをブートするには、一時ブートデバイスとしてネットワークアダプタカードを選択します。

- i. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

注記 - BIOS 画面の表示には少し時間がかかることがあります。しばらくお待ちください。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- ii. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F8 キーを選択して BBS ポップアップを表示します。
- iii. PXE ブートのためのデフォルトのブートデバイスとしてネットワークアダプタを選択します。
- iv. 「Select Boot Device」メニューに移動し、デフォルトのブートデバイスとしてネットワークアダプタカードを選択します。

PXE ネットワークブートを使用して Windows Server のインストールを実行するための詳細は、[59 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする」](#)を参照してください。

- c. BIOS でネットワークアダプタカードがデフォルトのブートデバイスになっていることを確認します。

- i. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。
手順 b のサブステップ i を参照してください。
- ii. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを選択してセットアップを実行します。
- iii. BIOS 設定ユーティリティーで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。
「Boot」メニュー画面が表示されます。
- iv. ネットワークアダプタカードがデフォルトのブートデバイスになっていることを確認します。
- v. 保存して設定ユーティリティーを終了します。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- [23 ページの「インストール先オプション」](#)
- [24 ページの「ローカルストレージドライブ \(HDD\) をインストール先として設定する」](#)
- [24 ページの「ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する」](#)

インストール先オプション

サーバーに取り付けられている任意のハードディスクドライブ (HDD) にオペレーティングシステムをインストールできます。

注記 - NVMe ドライブをインストール先として使用することはできません。これらのドライブは、オペレーティングシステムのインストールやブートをサポートしていません。

NVMe ドライブは、Windows Server オペレーティングシステムを実行しているサーバーではサポートされていません。サーバーに NVMe ドライブが搭載されている場合、それを使用するには、Oracle Solaris または Oracle Linux オペレーティングシステムのどちらかをインストールする必要があります。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールすることを選択できます。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD) をインストール先として設定する

- ターゲットドライブ (HDD) が正しく取り付けられ、サーバーの電源が入っていることを確認します。

HDD または SSD の取り付けおよび電源投入については、「[Servicing Storage Drives](#)」 in 『Oracle Server X5-8 Service Manual』を参照してください。

注記 - NVMe ドライブをインストール先として使用することはできません。これらのドライブは、オペレーティングシステムのインストールやブートをサポートしていません。

▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する

1. PCIe ホストバスアダプタ (HBA) がサーバーに正しく取り付けられていることを確認します。

PCIe HBA オプションの取り付けについては、「[Servicing PCIe Cards and the Dual PCIe Card Carriers \(DPCCs\)](#)」 in 『Oracle Server X5-8 Service Manual』を参照してください。

2. Storage Area Network (SAN) が取り付けられ、かつサーバー上のホストでストレージデバイスが認識されるように構成されていることを確認します。

手順については、ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) に付属のドキュメントを参照してください。

Windows Server OS のインストールオプション

単一サーバーへの OS のインストールの場合は、Oracle System Assistant が推奨されます。複数のサーバーへの OS のインストールの場合は、Oracle Enterprise Manager Ops Center が推奨されます。このドキュメントの範囲は、単一サーバーへの OS のインストールです。次の表に、これらの 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、複数のサーバーに OS をインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html を参照してください。
単一サーバー	次のいずれかの方法を使用して、OS を単一サーバーにインストールします。 ■ ローカル: サーバーでローカルに OS のインストールを実行します。このオプションは、サーバーのラック内への物理的な設置を完了したばかりのときにお勧めします。 ■ リモート: リモートの場所から OS のインストールを実行します。このオプションでは、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して Oracle System Assistant にアクセスするか、または OS の手動インストールを実行します。 注記 - Oracle は、単一サーバーの OS インストールに Oracle System Assistant を使用することをお勧めします。

単一サーバーの OS インストール方法と Oracle System Assistant の詳細は、次を参照してください。

- [25 ページの「単一サーバーのインストール方法」](#)
- [「Oracle System Assistant」 in 『Oracle X5 Series Servers Administration Guide』](#)

単一サーバーのインストール方法

Windows インストールメディアを提供するための方法を選択します。次の情報を使用して、ニーズにもっとも適したローカルまたはリモートの OS インストールを決定します。

メディアの提供方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します。(推奨)	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Windows 配布メディア。詳細は、 26 ページの「Windows Server OS の補助付きインストール」 を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します。(推奨)	Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーション、リダイレクトされた DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Windows 配布メディア。詳細は、 26 ページの「Windows Server OS の補助付きインストール」 を参照してください。
ローカルでの DVD ドライブの使用 – サーバーに接続した物理 DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB DVD ドライブ、および Windows 配布メディア。ローカルインストールの場合は、ローカルの DVD ドライブまたはサーバーに直接装着された USB フラッシュドライブを使用してインストールメディアを提供します。詳細は、 26 ページの「Windows Server OS の手動インストール」 を参照してください。

メディアの提供方法	その他の要件
DVD ドライブまたは DVD ISO イメージを使用したり リモート – Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステム上のリダイレクトされた物理 DVD ドライブを使用します。	ブラウザを備えたリモートシステム、接続された物理 DVD ドライブ、Windows 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。リモートインストールの場合は、リモートの DVD、USB フラッシュドライブ、または DVD ISO イメージを使用してインストールメディアを提供します。詳細は、 26 ページの「Windows 展開サービスの OS インストール」 を参照してください。
WDS WIM イメージ – Windows 展開サービス (WDS) サーバー上のカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用します。	WDS を実行しているサーバー、および使用しているサーバー用にカスタマイズされた WIM イメージ。詳細は、 26 ページの「Windows 展開サービスの OS インストール」 を参照してください。このインストール方法は、WDS を使用した Windows PXE インストール用です。

Windows Server OS の補助付きインストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするための推奨される方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。Windows OS インストールメディアをローカルまたはリモートの DVD ドライブ、USB デバイス、または DVD イメージで提供すると、Oracle System Assistant がインストールプロセスをガイドし、必要に応じて Oracle OEM ドライバを収集してインストールします。使用しているサーバーで Oracle System Assistant がサポートされ、そのサーバーにインストールされている必要があります。

Windows Server OS の手動インストール

この方法では、Windows 配布メディアをローカルまたはリモートの DVD ドライブ、USB デバイス、または DVD イメージで提供します。また、必要なドライバをすべてインストールすることも必要です。サーバー用のドライバは、サーバーの内蔵 Oracle System Assistant フラッシュドライブ (取り付けられている場合) に用意されており、My Oracle Support Web サイトから OS 固有およびサーバー固有のパッケージまたは ISO イメージファイルとして入手することもできます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Windows 展開サービスの OS インストール

Windows 展開サービスから Windows OS をインストールできます。上級ユーザーは、Windows 展開サービス (WDS) を実行しているシステム上のサーバー用にカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを作成できます。この WIM イメージが作成されたあとは、ネットワークアダプタカードからサーバーをネットワークブート (PXE) し、WDS システムから WIM イメージを選択して展開できます。WDS の詳細は、<http://technet.microsoft.com/library/hh831620> を参照してください。

Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
UEFI を設定します。	27 ページの「ブート環境の準備」 「Reset the BIOS Firmware to Default Settings (BIOS)」 in 『Oracle X5 Series Servers Administration Guide』
ブートモードを設定します。	28 ページの「ブートモードを設定する」 「Viewing or Modifying the Current Boot Mode」 in 『Oracle X5 Series Servers Administration Guide』
サーバー上に RAID を構成します。	32 ページの「RAID の構成」 「Configure Storage Drives for OS Installation」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』

関連情報

- [34 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2012 または 2012 R2 の単一システムへのインストール」](#)
- [39 ページの「Windows Server 2012 または 2012 R2 の単一システムへの手動でのインストール」](#)

ブート環境の準備

オペレーティングシステムをインストールする前に、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) 設定が、実行する予定のインストールの種類をサポートするように構成されていることを確認するようにしてください。

サーバーには、レガシー BIOS と UEFI の両方のブートモードをサポートする Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) が装備されています。UEFI は、オペレーティングシステムとプラットフォームファームウェアの間のソフトウェアインタフェース

を定義する仕様です。UEFI ファームウェアは、基本入出力システム (BIOS) ファームウェアインタフェースを置き換えることを目的にしています。サーバーは、レガシー BIOS ブートモード (デフォルト) または UEFI ブートモードのどちらかでブートするように構成できます。

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて UEFI 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することによって、サーバーが既知の適切な構成で効率的に動作することが保証されます。最適なデフォルト値は、『*Oracle Server X5-8 サービスマニュアル*』で確認できます。サーバーが UEFI ブートモードになっていた場合は、最適なデフォルト値を設定すると、BIOS がデフォルトのレガシー BIOS ブートモードにリセットされます。最適なデフォルト値を選択すると、UEFI ファームウェアが、出荷時のデフォルトであるレガシー BIOS ブートモードにリセットされます。

注記 - 最適なデフォルト値を設定する手順はオプションです。サーバーが新しく設置され、ここでオペレーティングシステムがはじめてインストールされる場合、UEFI はおそらくその最適なデフォルト設定に構成されているため、この手順を実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティで (F2 キーを使用して) 行なった変更はすべて、次にそれを変更するまで保持されます。

F2 キーを使用してシステムの UEFI/BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、UEFI/BIOS の起動中に F8 キーを使用して一時ブートデバイスを指定することもできます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートでのみ有効です。その一時ブートデバイスからブートしたあとは、F2 キーを使用して UEFI/BIOS で指定された常時ブートデバイスが有効になります。

次のトピックは、インストールをサポートするように UEFI を構成する方法に関する具体的な手順を示しています。

■ 28 ページの「ブートモードを設定する」

UEFI ファームウェアの設定、UEFI の最適なデフォルト値の設定、およびブートプロパティの変更の詳細は、「[Reset the BIOS Firmware to Default Settings \(BIOS\)](#)」 in 『*Oracle X5 Series Servers Administration Guide*』を参照してください。

UEFI は、オペレーティングシステムとプラットフォームファームウェアの間のソフトウェアインタフェースを定義する仕様です。UEFI は、基本入出力システム (BIOS) ファームウェアインタフェースを置き換えます。

▼ ブートモードを設定する

サーバーは、レガシー BIOS ブートモード (デフォルト) または UEFI ブートモードのどちらかでブートするように構成できます。デフォルトでは、レガシー BIOS ブート

モードが有効になります。Windows Server 2012 および 2012 R2 オペレーティングシステムはレガシー BIOS と UEFI の両方をサポートしているため、OS のインストールを実行する前に、ブートモードをレガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのどちらにも設定できます。

注記 - Windows Server オペレーティングシステムをインストールしたあと、レガシー BIOS ブートモードから UEFI ブートモードに (またはその逆に) 切り替えることにした場合は、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

始める前に 次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、[14 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。

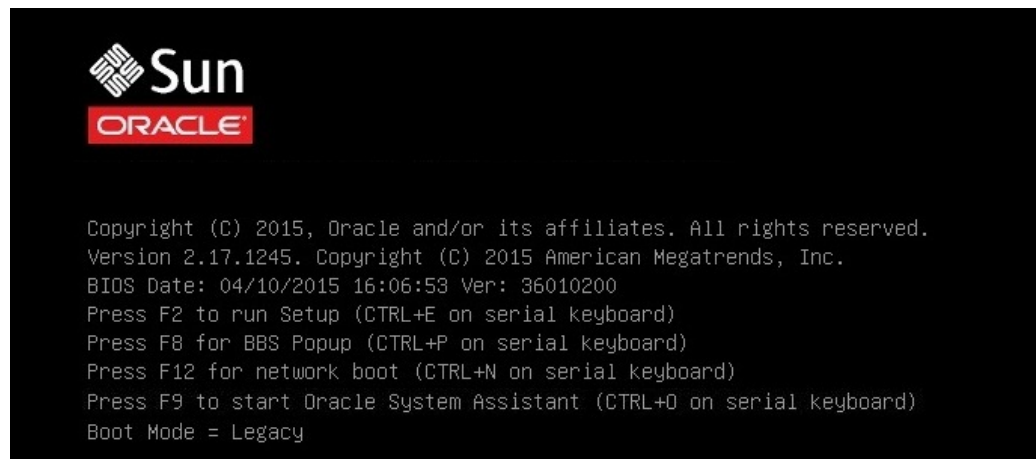
1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーから**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切ったあと、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- Oracle ILOM CLI から、「**reset /System**」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

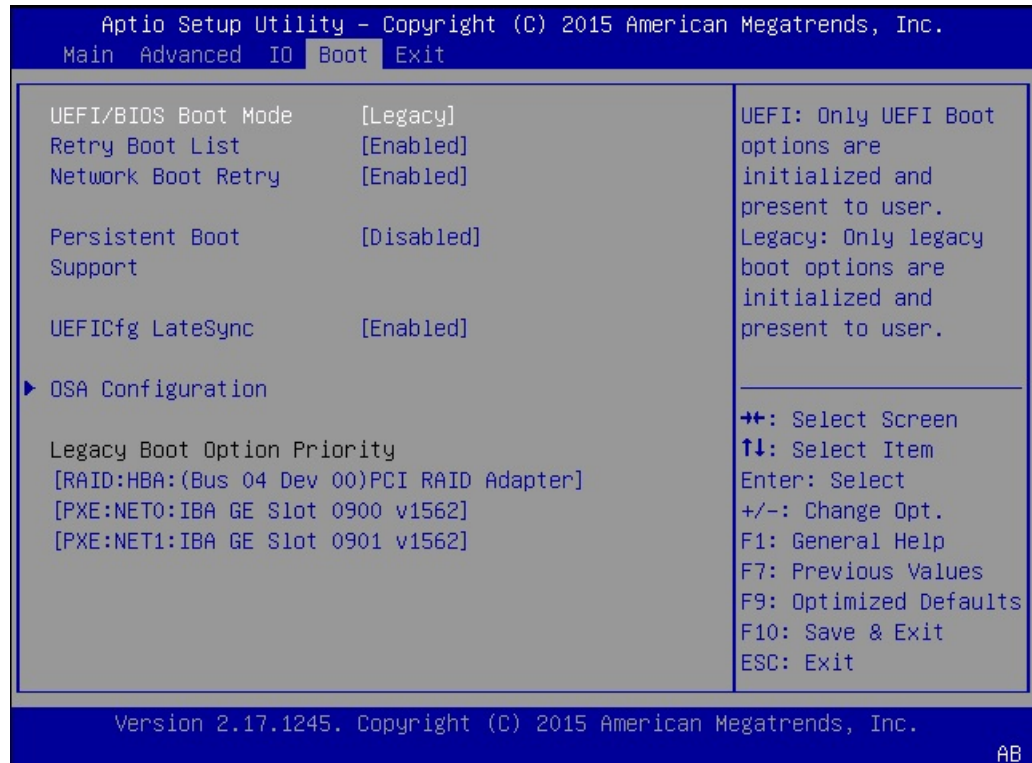
注記 - BIOS 画面の表示には少し時間がかかることがあります。しばらくお待ちください。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

2. **BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**
しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。
3. **BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。**

「Boot」メニュー画面が表示されます。



注記 - ブート順序リスト内のオプションは、ストレージドライブ構成や、永続ブートサポート機能を有効にしているかどうかによって異なります。永続ブートサポートの詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

4. 下矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、Enter キーを押します。
5. 優先使用するブートモードを選択し、Enter キーを押します。
6. 変更を保存して BIOS を終了するには、F10 キーを押します。

注記 - オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、目的のブートモード (レガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモード) を選択する必要があります。

RAID の構成

RAID 構成でサーバストレージドライブを構成する場合は、Windows OS をインストールする前にサーバー上に RAID を構成します。RAID を構成する手順については、「[Configure Storage Drives for OS Installation](#)」 in 『[Oracle Server X5-8 Installation Guide](#)』を参照してください。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『*Oracle X5 シリーズ* サーバー管理ガイド』

Windows Server オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、サーバーに Microsoft Windows Server オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

説明	リンク
インストール前の要件。	33 ページの「始める前に」
Oracle System Assistant を使用した Windows オペレーティングシステムのインストール。	34 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2012 または 2012 R2 の単一システムへのインストール」
メディアを使用した Windows オペレーティングシステムのインストール。	39 ページの「Windows Server 2012 または 2012 R2 の単一システムへの手動でのインストール」

関連情報

- [27 ページの「ブート環境の準備」](#)
- [32 ページの「RAID の構成」](#)

始める前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーのストレージドライブ上に RAID (Redundant Array of Independent Disks) を構成する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に行う必要があります。RAID を構成する手順については、「[Configure Storage Drives for OS Installation](#)」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide』を参照してください。

注記 - Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA を使用してストレージドライ
ブを管理する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に RAID
ボリュームを作成し、それをブート可能にする必要があります。そうしないと、
HBA がサーバーのストレージドライブを識別できなくなります。

- UEFI ファームウェアの設定が最適なデフォルト値に設定されていることを確認し
ます。UEFI ファームウェアの設定を確認し、必要に応じてそれを設定する方法に
ついて。UEFI の最適なデフォルト値の詳細は、[http://www.oracle.com/goto/
x86AdminDiag/docs](http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs) にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照して
ください。
- UEFI ファームウェアを目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) に設定し
ます。UEFI ブートモードを設定する方法については、[28 ページの「ブートモード
を設定する」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、コンソール表示オプションが選択および設定されていま
す。このオプションおよび設定手順の詳細は、[14 ページの「コンソール表示オプ
ションの選択」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、ブートメディアオプションが選択および設定されていま
す。このオプションおよび設定手順の詳細は、[16 ページの「ブートメディアオプ
ションの選択」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、インストール先オプションとして使用されるストレ
ージドライブが選択および設定されています。このオプションおよび設定手順の詳細
は、[23 ページの「インストール先オプションの選択」](#)を参照してください。
- Microsoft Windows Server 2012 または Windows Server 2012 R2 オペレーティ
ングシステムのドキュメントを収集して、それをこのセクションに示されている
Windows Server オペレーティングシステムに関する説明とともに使用してくださ
い。Microsoft Windows Server 2012 および 2012 R2 のインストールドキュメント
は、<http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx> で
入手できます。

Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2012 または 2012 R2 の単一システムへのインストール

サポートされる Microsoft Windows Server OS を Oracle Server X5-8 にインストールする
方法としては、インストール時にプラットフォームのドライバが Windows OS に自動
的に投入されるため、Oracle System Assistant アプリケーションの「Install OS」タスク
が推奨されます。

- [35 ページの「Oracle System Assistant を使用して Windows Server 2012 または
2012 R2 を単一システムにインストールする」](#)

▼ Oracle System Assistant を使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を単一システムにインストールする

- 始める前に
- 27 ページの「[Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備](#)」の手順を実行します。
 - ブートドライブ (つまり、Windows Server OS をインストールしているストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、OS をインストールする前に行う必要があります。サーバー上に RAID を構成する方法については、「[Configure Storage Drives for OS Installation](#)」 in 『[Oracle Server X5-8 Installation Guide](#)』を参照してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

- **配布 DVD の場合は**、Windows Server 配布メディア (単一の DVD) をローカルまたは外付けの USB DVD-ROM ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合は**、ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションがその ISO イメージをマウントしていることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細は、[16 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. Oracle System Assistant を Oracle ILOM Web インタフェースから直接起動するには (推奨)、次の手順を実行します。それ以外の場合は、[ステップ 3](#)に進みます。

- a. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。

Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。

General Information

System Type	Rack Mount
Model	ORACLE SERVER X5-8
QPart ID	Q11159
Part Number	0FM-X441-36
Serial Number	00000-00-12345
Component Model	ORACLE SERVER X5-8
Component Part Number	000-0000-00
Component Serial Number	0000CNW000
System Identifier	OS-WIN-X5-8-P1-0-004
System Firmware Version	3.2.5.12
Primary Operating System	Not Available
Host Primary MAC Address	00:10:e0:3c:42:d8
ILOM Address	10.129.228.123
ILOM MAC Address	00:10:E0:3C:42:DA

Status

Overall Status: OK Total Problem Count: 0

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: Eight Intel Xeon Processor E7 V3 Series	Processors: 8 / 8 (installed / Maximum)
Memory	OK	Installed RAM Size: 176 GB	DIMMs: 11 / 192 (installed / Maximum)
Power	OK	Permitted Power Consumption: 3754 watts Actual Power Consumption: 1049 watts	PSUs: 4 / 4 (installed / Maximum)
Cooling	OK	Inlet Air Temperature: 29 °C Exhaust Air Temperature: Not Supported	Chassis Fans: 16 / 16 (installed / Maximum) PSU Fans: Not Supported
Storage	Not Available	Installed Disk Size: Not Available Disk Controllers: Not Available	Internal Disks: 1 / 8 (installed / Maximum)
Networking	OK		Ethernet NICs: 2 (installed)

- b. Oracle ILOM の「Summary Information」ページの「Actions」パネルで、「Oracle System Assistant Launch」ボタンをクリックします。
「Oracle System Assistant System Overview」画面が表示されます。

System Overview

Product Name: ORACLE SERVER X5-8
 Serial Number: 0000CNW000
 System Type: Rack Mount
 System Identifier: OS-WIN-X5-8-P1-0-004
 BIOS Version: 3701.0400
 BIOS Mode: Legacy
 ILOM Version: 3.2.5.12 r100103
 ILOM IP Address:
 ILOM MAC Address:
 Host IP Address:
 Host MAC Address: (net0)

- c. **ステップ 4**に進みます。

3. リモートコンソールと BIOS を使用して Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。

a. Oracle ILOM の「Summary Information」ページから、「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。

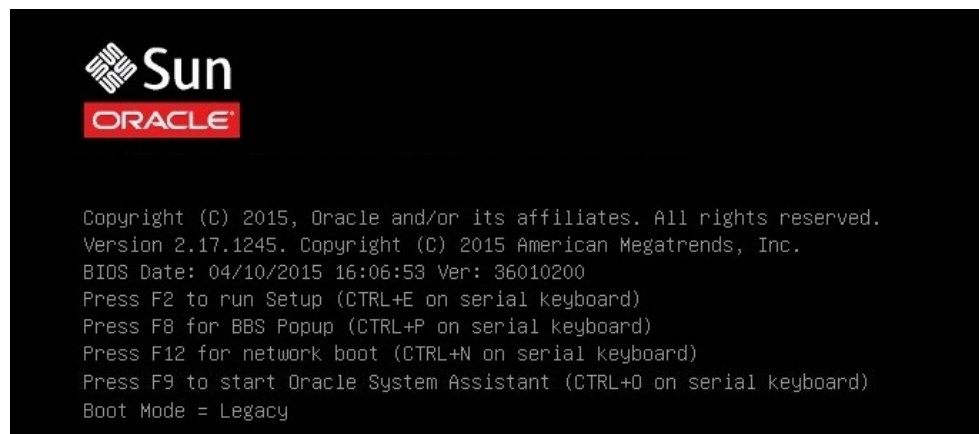
「Oracle ILOM Remote System Console Plus」ウィンドウが表示されます。

b. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- Oracle ILOM CLI から、「reset /system」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションに表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

c. F9 キーを押します。

「Oracle System Assistant System Overview」画面が表示されます。

4. **Oracle System Assistant** を最新のソフトウェアリリースバージョンに更新するには、**Oracle System Assistant** の「**Get Updates**」ボタンをクリックします。
このアクションにより、OS のインストールを開始する前に、サーバーに最新のソフトウェアリリースパッケージが確実にインストールされます。

注記 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

5. サーバーのファームウェアを更新するには、「**Update Firmware**」ボタンをクリックします。
このアクションにより、OS のインストールを開始する前に、サーバーのファームウェアおよび BIOS が確実に最新のものになります。
6. **Windows Server OS** をインストールするには、「**Install OS**」ボタンをクリックします。
「Install Operating System」画面が表示されます。
7. 「**Supported OS**」ドロップダウンリストから、**Windows Server OS** を選択します。
8. 画面の「**Current BIOS mode**」の部分で、OS のインストールに使用するブートモード (**UEFI** または **レガシー BIOS**) を選択します。
9. 画面の「**Select Your Install Media Location**」の部分で、インストールメディアの場所を選択します。
これは OS 配布メディアの場所です。オプションは「**DVD**」と「**Network**」です。

注記 - Oracle System Assistant は、PXE (Preboot eXecution Environment) インストールをサポートしません。

10. 「**Installation Details**」をクリックします。
「Installation Details」ダイアログが表示されます。
11. 「**Installation Details**」ダイアログで、インストールしない項目をすべて選択解除し、「**OK**」をクリックします。

注記 - 「Installation Details」ダイアログで、「Install Microsoft Windows Server」および「Use Oracle recommended Drivers」オプションは必須であり、選択解除できません。

12. 「**Operating System Installation**」画面の最下部にある「**OS Install**」ボタンをクリックします。
サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS POST 画面が表示されます。

13. インストールを開始するには、**BIOS POST** 画面が表示されたあとに **F8** キーを押します。

Windows インストールメディアの場所を選択し、Windows オペレーティングシステムをインストールします。

Windows Server 2012 または 2012 R2 の単一システムへの手動でのインストール

このセクションでは、Windows Server 2012 および 2012 R2 オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

- [39 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を手動でインストールする」](#)
- [59 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする」](#)

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を手動でインストールする

この手順では、Microsoft Windows Server 2012 または 2012 R2 オペレーティングシステムをローカルまたはリモートメディアからブートする方法について説明します。次のいずれかのソースから Windows インストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Windows Server 2012 または 2012 R2 の DVD
- Windows Server 2012 または 2012 R2 の ISO イメージ

注記 - Windows Server 2012 または 2012 R2 の ISO イメージは、リモートインストールやインストール DVD の作成に使用できます。

注記 - PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[59 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする」](#)で手順を確認してください。

1. インストールメディアがブート可能であることを確認します。

- **配布 DVD の場合**は、ローカルまたリモートの DVD-ROM ドライブに Windows 2012 または 2012 R2 配布メディア (単一の DVD) を挿入します。
- **ISO イメージの場合**は、Windows 2012 または 2012 R2 の ISO イメージが使用可能であり、その ISO イメージが Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションで「KVMS」メニューを使用してマウントされていることを確認します。

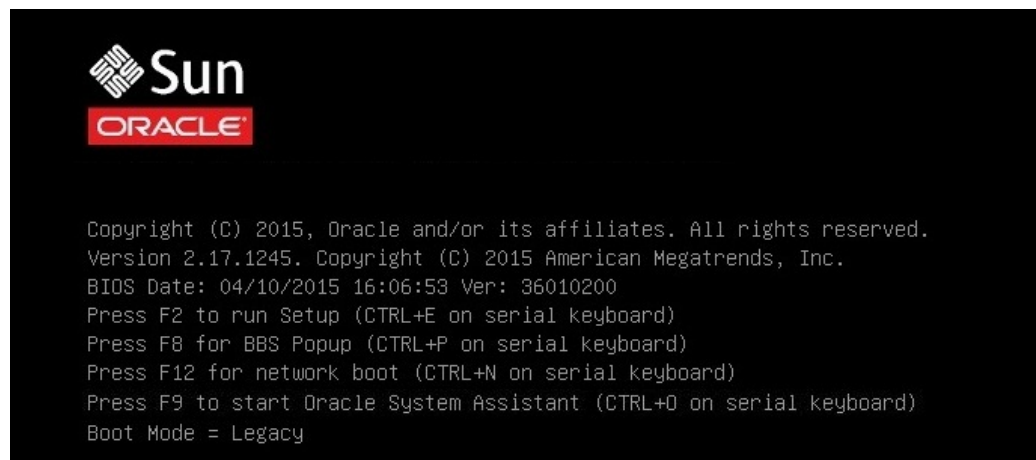
インストールメディアを設定する方法の詳細は、[16 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバー**のフロントパネルにある電源ボタンを (約 1 秒) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェース**から「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI** から、「`reset /System`」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

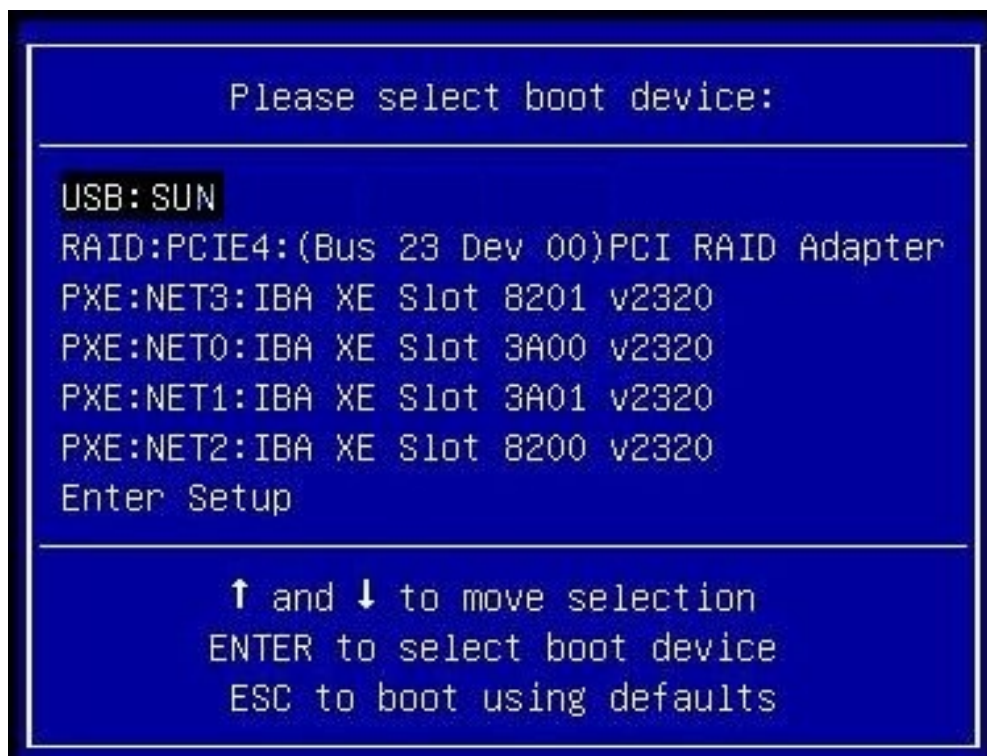


注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS 画面で F8 キーを押して、Windows OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

「[Boot Pop Up Menu Selected]」が BIOS 画面の最下部に表示されてから、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS ブートモードと UEFI ブートモードのどちらに構成したかによって異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



UEFI ブートモードの場合は、ローカルおよびリモートのブートデバイスに加えて、各ネットワークアダプタインタフェースで IPv4 と IPv6 の両方のプロトコルが選択可能です。

注記 - インストールで表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラやその他のハードウェア (PCIe ネットワークカードなど) のタイプによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用することを選択した Windows メディアのインストール方法と UEFI/BIOS ブートモードに応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。

たとえば、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの提供方法を使用することを選択した場合は、「Legacy BIOS Boot Mode」画面から「USB: VIRTUAL: Remote Iso CDR0M2.04」を選択するか、または「UEFI Boot Mode」画面から「[UEFI] USB: VIRTUAL: Remote Iso CDR0M2.04」を選択します。

5. 「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押します。

Windows インストールウィザードが起動し、「Loading files」画面が表示されます。



Windows インストールウィザードが進み、言語ローカリゼーションのダイアログが表示されます。



6. 言語やその他の設定を選択し、「次へ」をクリックして続行します。
「今すぐインストール」画面が表示されます。

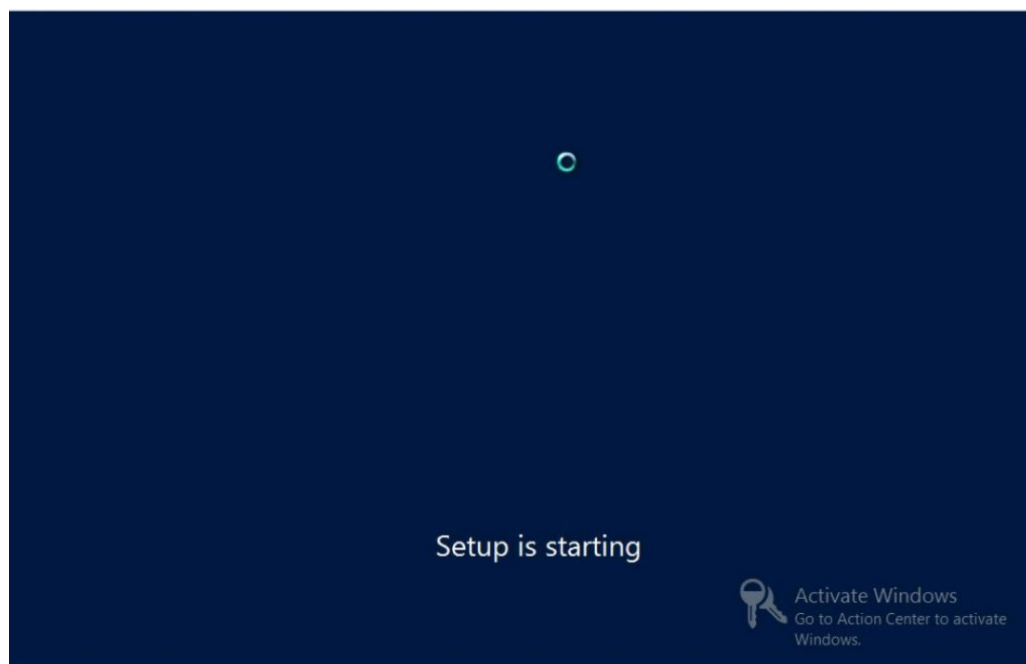
注記 - 「今すぐインストール」画面では、インストールを続行するか、またはオプションの修復メニュー (画面の左下を参照してください) にアクセスしてトラブルシューティングを行うことができます。

Windows のライセンス契約によっては、Windows Server のライセンスキーの入力が必要になることがあります。

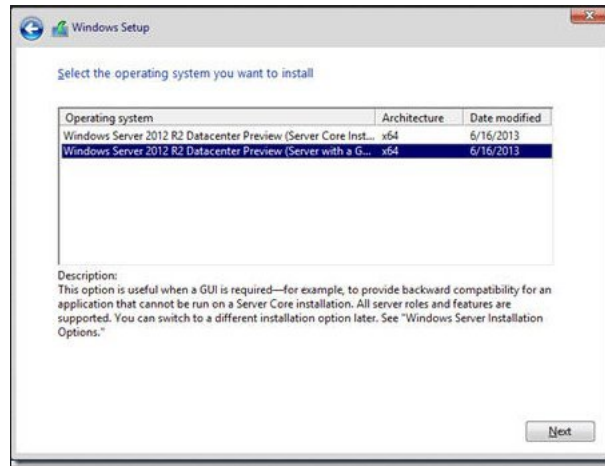


7. 「今すぐインストール」をクリックします。

「セットアップを始めています」画面が表示されます。



次に、オペレーティングシステム選択のダイアログが表示されます。

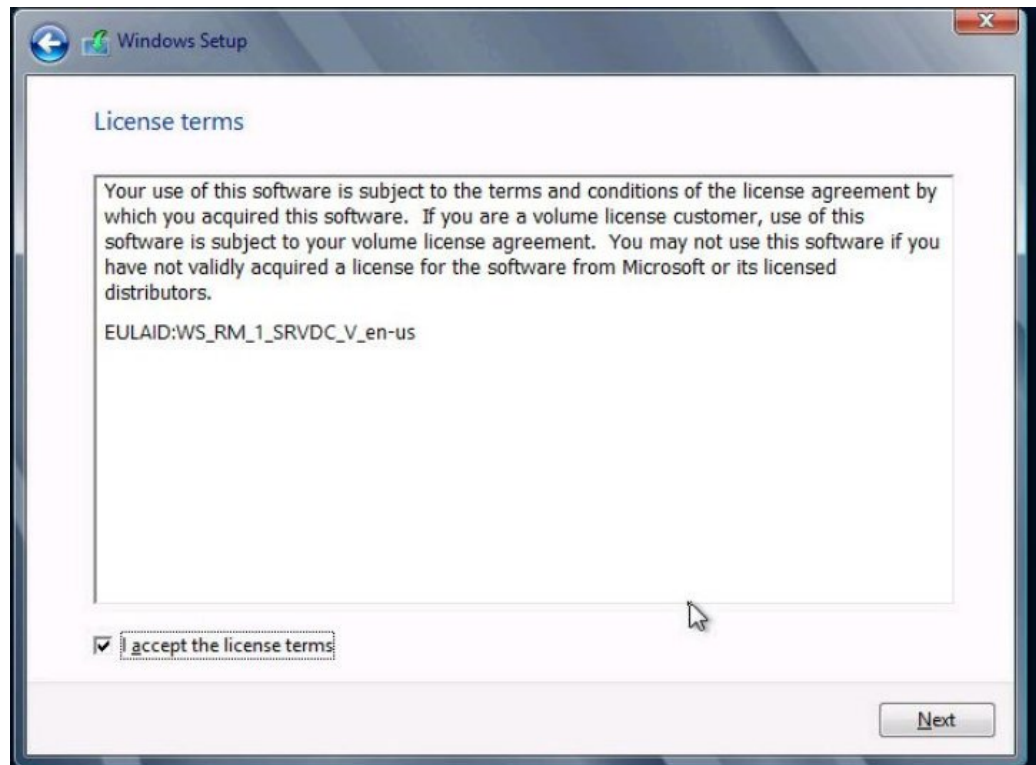


8. オペレーティングシステム選択のダイアログで目的のオペレーティングシステムを選択して、「次へ」をクリックして続行します。

通常のインストールでは、リストの最下部にある「Windows Server 2012 (または 2012 R2) Datacenter (GUI 使用サーバー)」を選択します。

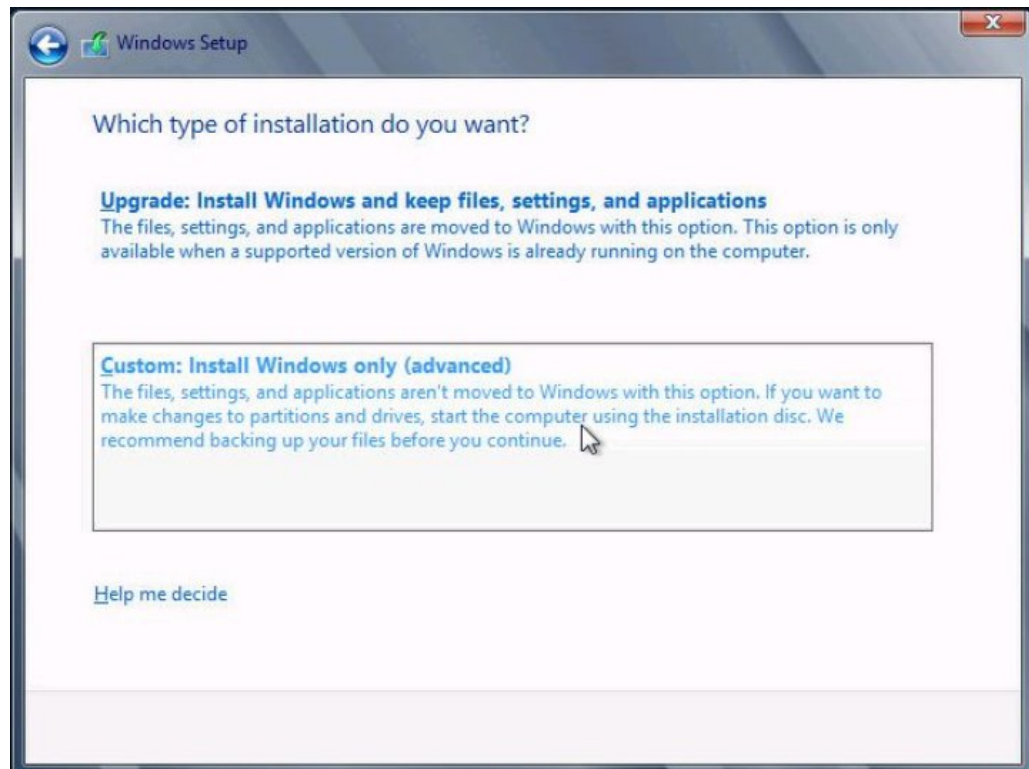
Windows オペレーティングシステムのさまざまなタイプの詳細は、<http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx> にある Windows Server 2012 または 2012 R2 のドキュメントを参照してください。

「ライセンス条項」画面が表示されます。



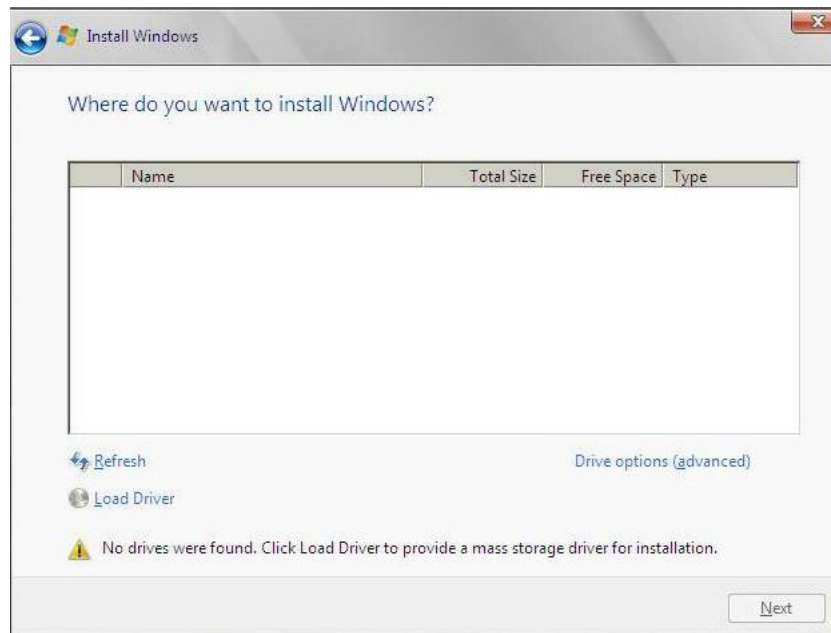
9. 「ライセンス条項」画面で、「条項に同意します」チェックボックスを選択し、「次へ」をクリックして続行します。

「インストールの種類を選んでください」ダイアログが表示されます。



10. 新規インストールでは、「インストールの種類を選んでください」ダイアログで「カスタム: Windows のみをインストールする (詳細設定)」をクリックします

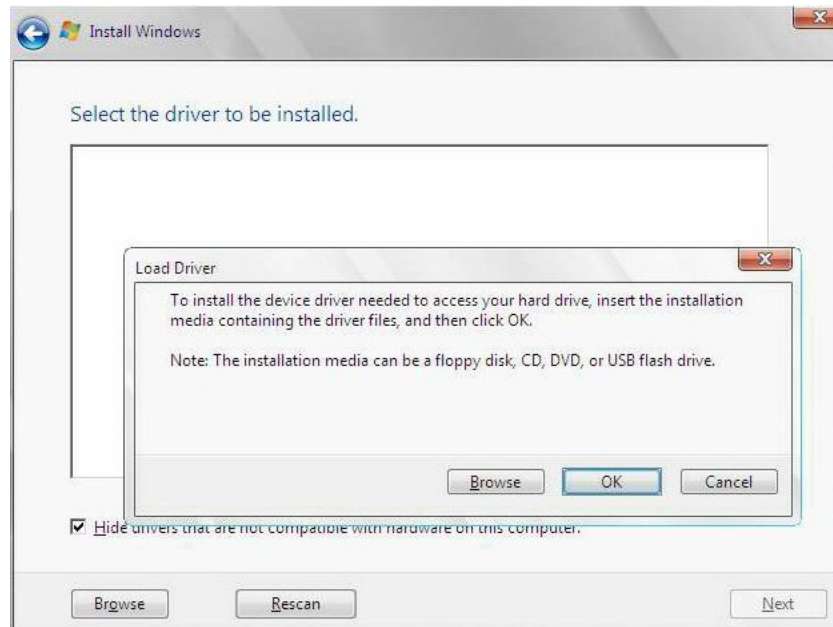
「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログが表示されます。



11. 「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログで、次のいずれかのタスクを実行します。

- どのストレージ先も一覧表示されず、かつサーバー上で Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe 外部 HBA カードが構成されている場合は、「ドライバの読み込み」をクリックして「ドライバの読み込み」ダイアログを表示してから、[ステップ 12](#)に進みます。
- オペレーティングシステムをインストールするストレージ先が表示されるが、そのストレージ先に関連付けられたデフォルトのパーティション設定を変更する場合は、ストレージ先を選択し、「ドライブオプション (詳細)」をクリックしてから、[ステップ 13](#)に進みます。
- オペレーティングシステムをインストールするストレージ先が表示され、そのストレージ先のデフォルトのパーティション設定を変更しない場合は、ストレージ先を選択し、「次へ」をクリックしてから、[ステップ 14](#)に進みます。

12. 「ドライバの読み込み」ダイアログで、次の手順を実行します。



- a. 選択されたインストール方法に応じてドライバにアクセスできることを確認します
(16 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照)。

例:

- ストレージドライバは、リモートコンソールからデバイスとしてマウントされたディスク上に存在します。
- ストレージドライバは、サーバーのシャーンの内部にマウントされた Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (取り付けられている場合) などのローカル物理ストレージメディア、DVD、またはリモートコンソールからマウントされた仮想メディア上に存在します。

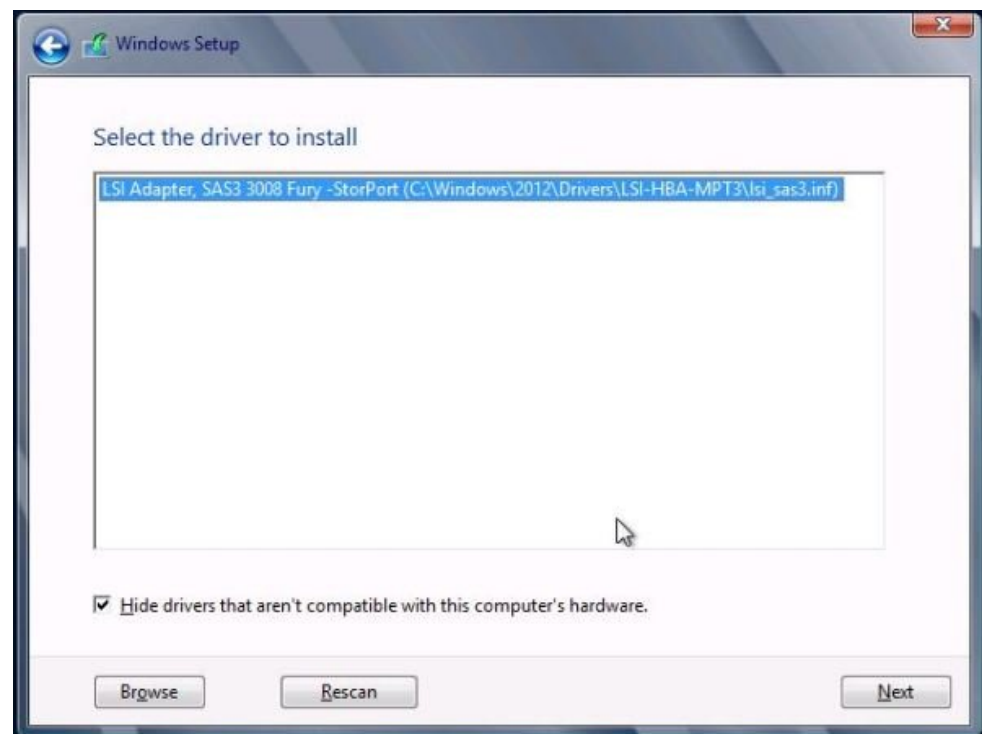
- b. 「ドライバの読み込み」ダイアログで「参照」をクリックして、次に説明されている適切なドライバメディアフォルダに移動します。

- Oracle Storage 12 Gb/s SAS 外部 PCIe HBA オプションを使用して構成されているシステムの場合は、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ上の Windows/%Windows OS%/Drivers/LSI-HBA-MPT3 ディレクトリに移動して、適切なドライバをロードします。

- c. 「フォルダを参照する」ダイアログで、適切なドライバを選択し、「OK」をクリックしてドライバをロードします。

選択されたドライバが「インストールするドライバを選択してください」ダイアログに表示されます。

例:



- d. 「インストールするドライバを選択してください」ダイアログで、「次へ」をクリックしてドライバをインストールします。

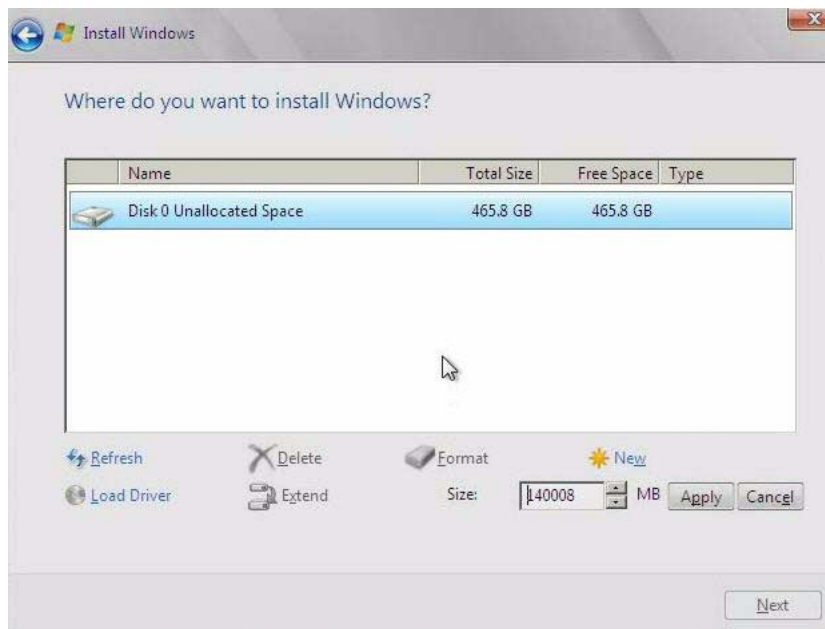
「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログが表示されます。

注記 - 以前に、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブからドライバをロードするために Windows Server のインストールメディアを取り外すか、またはアンマウントした場合は、「このディスクに Windows をインストールすることはできません」というメッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示された場合は、Windows のインストールメディアを挿入または再マウントしてから、「更新」をクリックしてください。

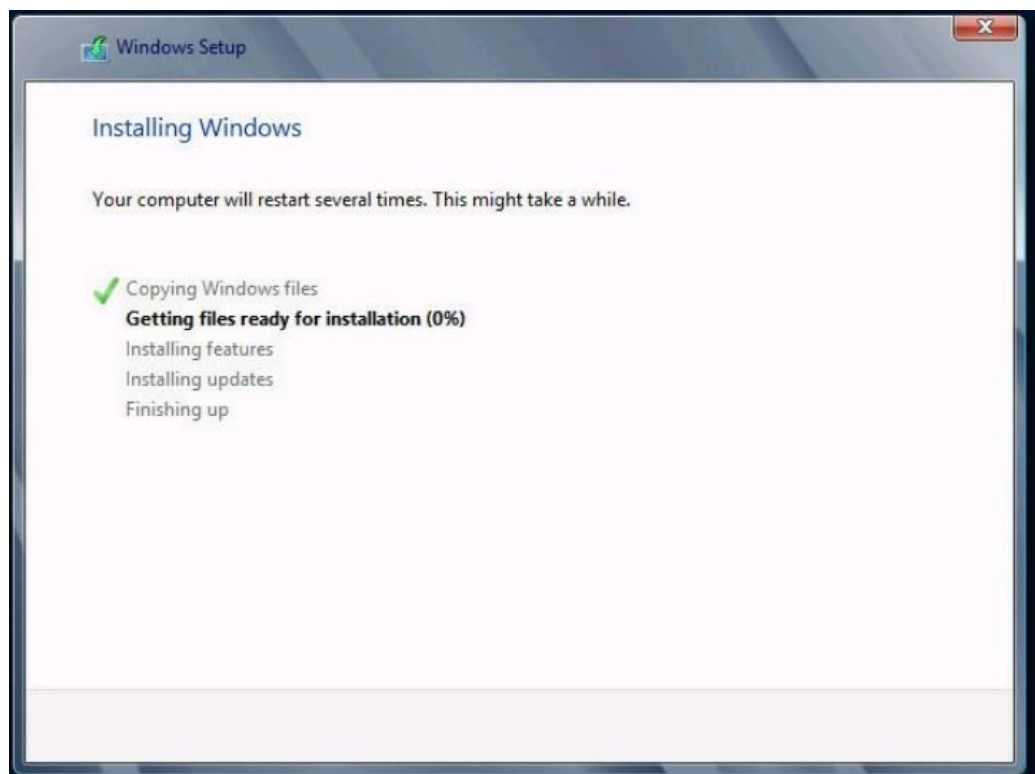
e. 「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログで、次のいずれかを実行します。

- 一覧表示されているストレージ先を選択し、「次へ」をクリックしてオペレーティングシステムをインストールしてから、[ステップ 14](#)に進みます。
- ターゲットディスクにいずれかのパーティションが存在する場合は、セットアッププロセスで適切なパーティションを作成できるようにすることをお勧めします。既存のパーティションを削除するには、[ステップ 13](#)に進みます。

13. (パーティションドライブ、詳細) 「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログの下部で、次の手順を実行します。

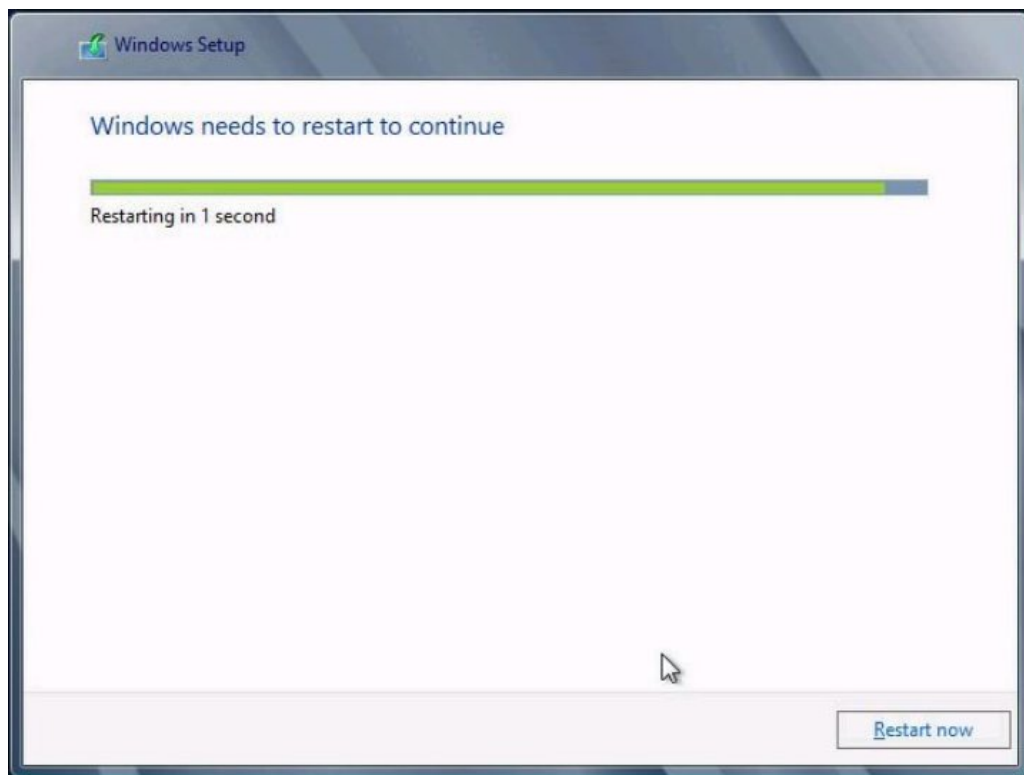


- a. ディスクを選択したあと、「削除」をクリックして、選択されたストレージ先が存在するパーティション構成を削除します。
確認ウィンドウが表示されます。
 - b. 「OK」をクリックして、パーティションの削除を確認します。
 - c. ターゲットディスク上に追加パーティションが存在する場合は、手順 a と手順 b を繰り返します。
14. **Windows をインストールするディスクを選択 (強調表示) し、「次へ」をクリックします。**
「Windows をインストールしています」画面が表示されます。



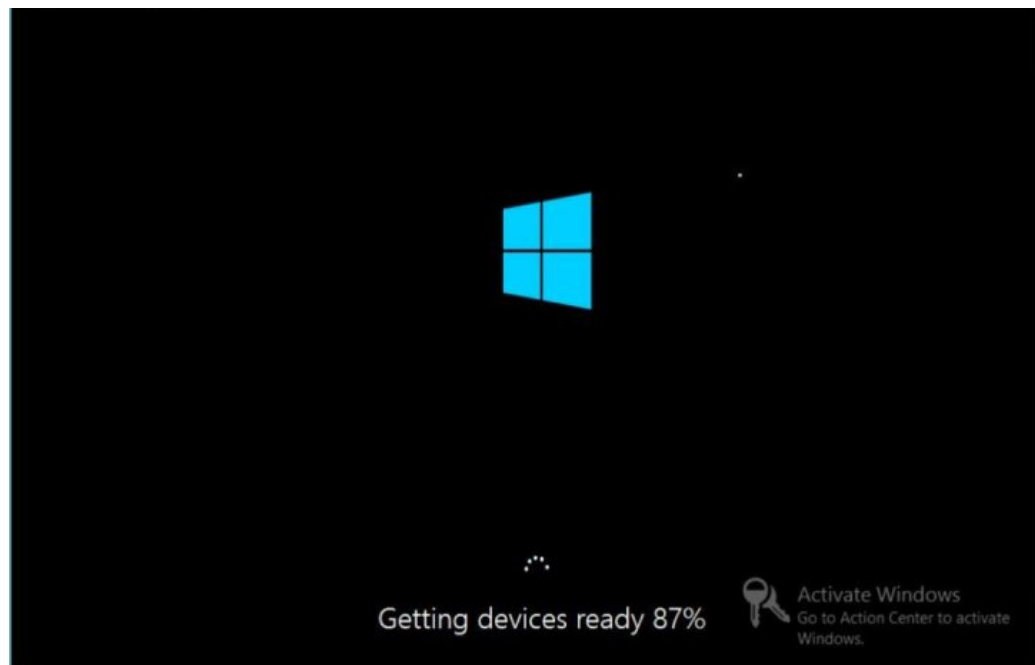
セットアップとインストールのプロセスが開始し、ファイルが宛先にコピーされます。

「続けるには、Windows を再起動する必要があります」画面が表示されます。

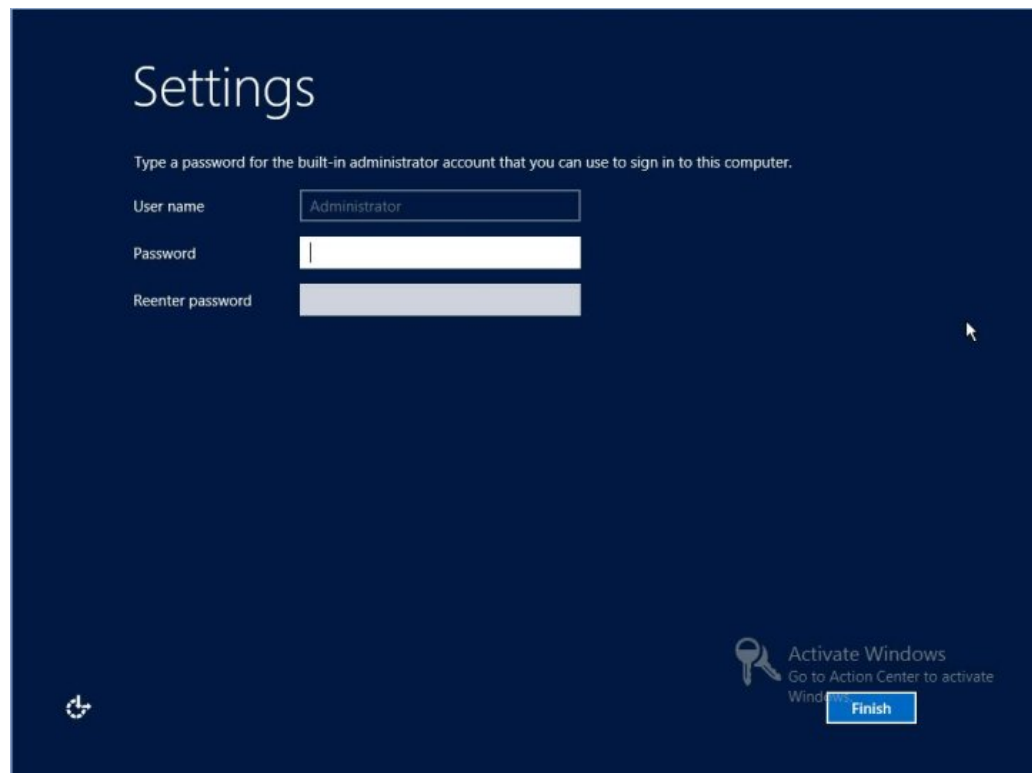


システムがリブートします。

15. システムがリブートしたあと、「デバイスの準備中」画面が表示され、**Windows** インストールウィザードがデバイス設定を構成するまで待ちます。

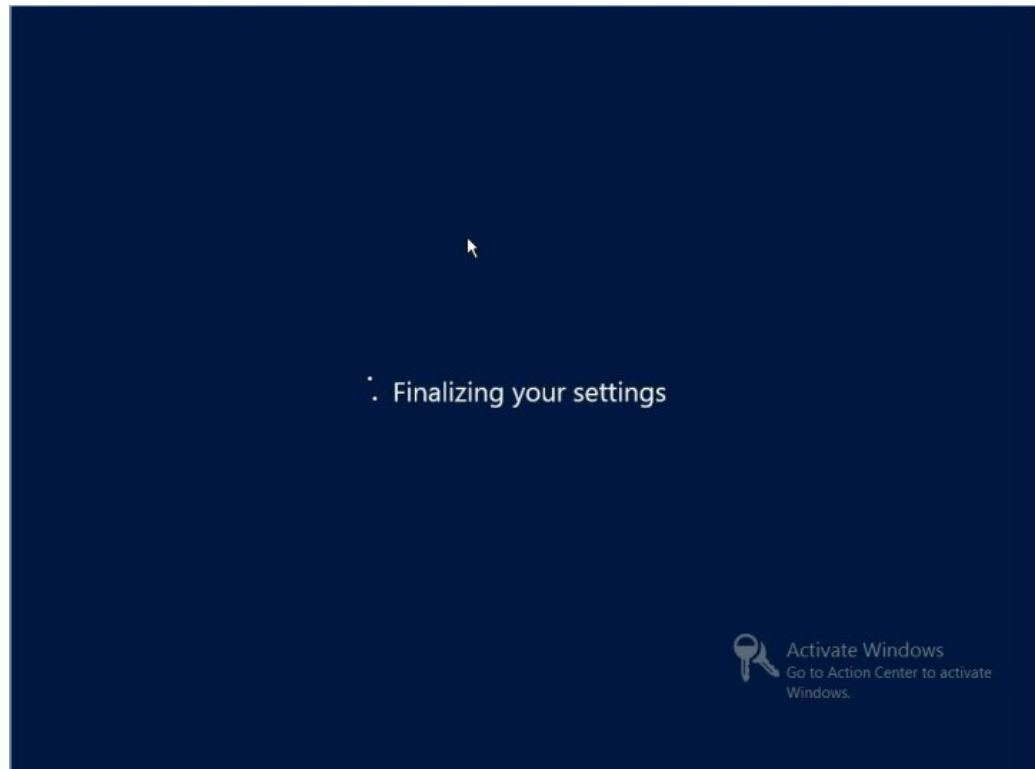


デバイスが構成されたあと、システムがふたたびブートし、「設定」画面が表示されます。



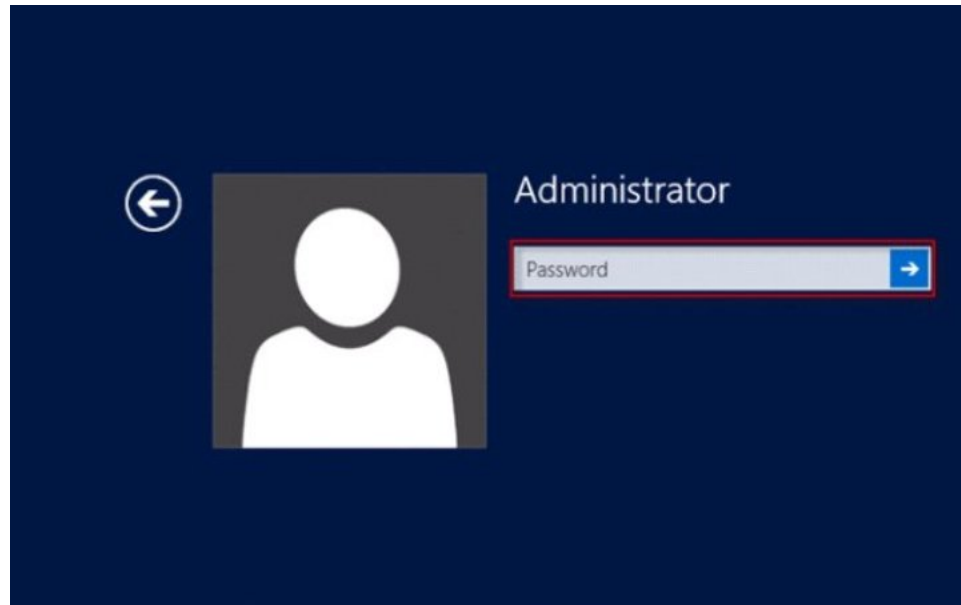
16. 管理者ユーザー名とパスワードを入力し、「完了」をクリックします。
「もう少しで完了します」画面が表示されます。

この画面は、Windows OS がインストールされたことを示しています。



17. インストールが完了したら、**Ctrl+Alt+Delete** を押してログインします。

管理者のログイン画面が表示されます。



18. 管理者のパスワードを入力し、矢印をクリックしてログインします。
Windows Server のデスクトップが表示されます。
これでインストールが完了します。
19. [65 ページの「Windows Server のインストール後のタスク」](#)に進み、インストール後のタスクを実行します。
これらのインストール後のタスクは Oracle OEM ソフトウェアを追加し、必要に応じてオペレーティングシステムのドライバをアップグレードします。

▼ PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする

このセクションでは、お客様提供の Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用して、確立された PXE ベースのネットワーク経由で Windows Server 2012 または 2012 R2 オペレーティングシステムをインストールするために必要な初期情報について説明するとともに、従う必要のある手順を示します。

注記 - このタスクは、Windows 展開サービス (WDS) を使用してネットワーク経由で Windows Server をインストールするための最初の手順を示しています。具体的には、WDS インストールサーバーと通信する PXE ネットワークアダプタカードを選択するための手順について説明します。WDS を使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする方法の詳細は、Microsoft の Windows 展開サービスのドキュメントを参照してください。

始める前に WDS を使用してインストールを実行するには、次のことを行う必要があります。

- 必要なシステムデバイスドライバを `install.wim` イメージに、また必要に応じて `boot.wim` イメージに追加します。
WIM インストールイメージにドライバを追加する手順については、Microsoft Windows 展開サービスおよび Windows アセスメント & デプロイメントキットのドキュメントを参照してください。
- PXE サービスに対して認証するための WDS ユーザーアカウントおよびパスワードを取得します。

1. Windows WDS が正しく構成され、Windows Server 2012 および 2012 R2 の WIM イメージが PXE インストール用に準備できていることを確認します。

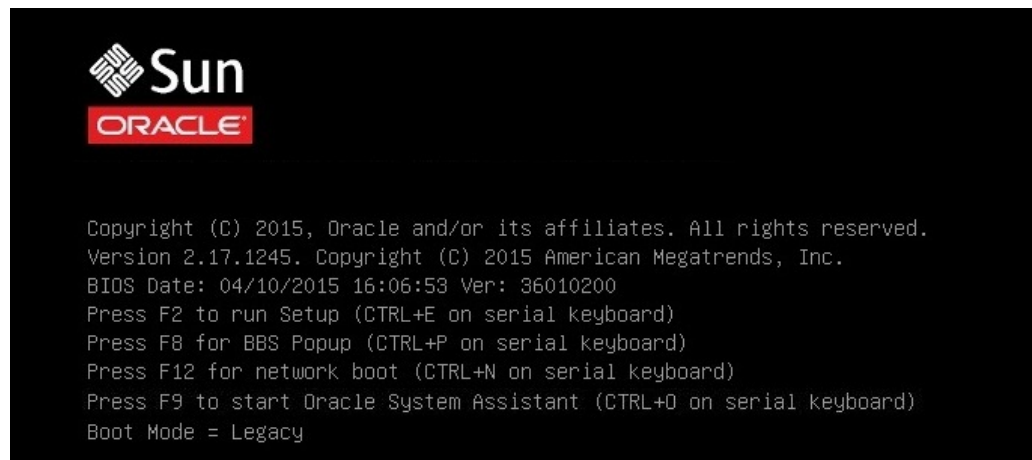
PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Windows インストールメディアが PXE ブートに使用できることを確認します。

2. サーバーをリセットします。

たとえば、サーバーをリセットするには:

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI から**、「`reset /System`」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションに表示されます。



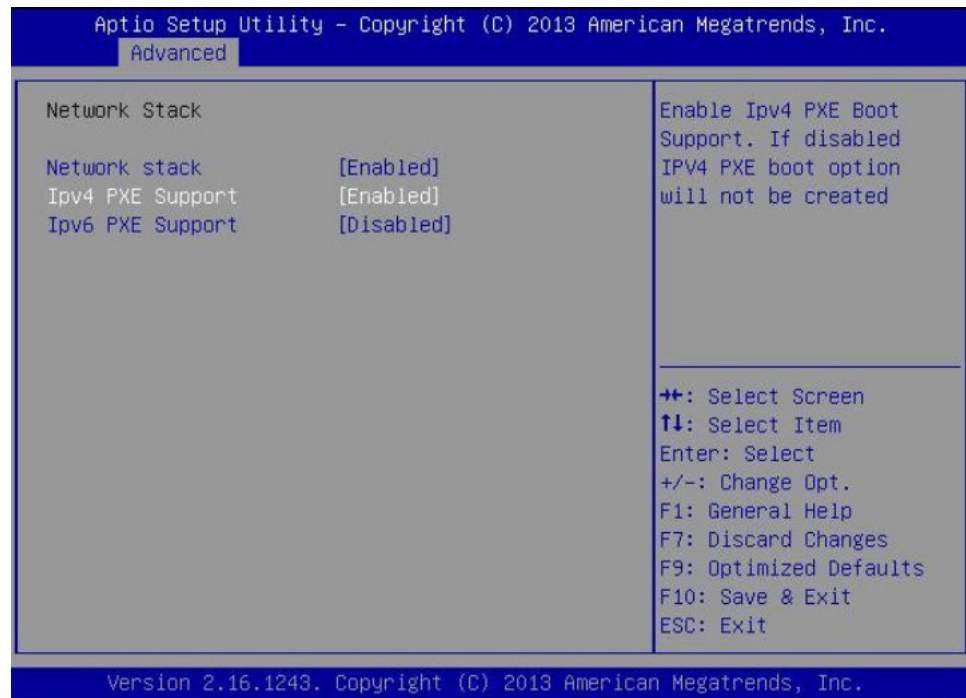
注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. **PXE ブートサポートが有効になっていることを確認するには、次の手順を実行します。**

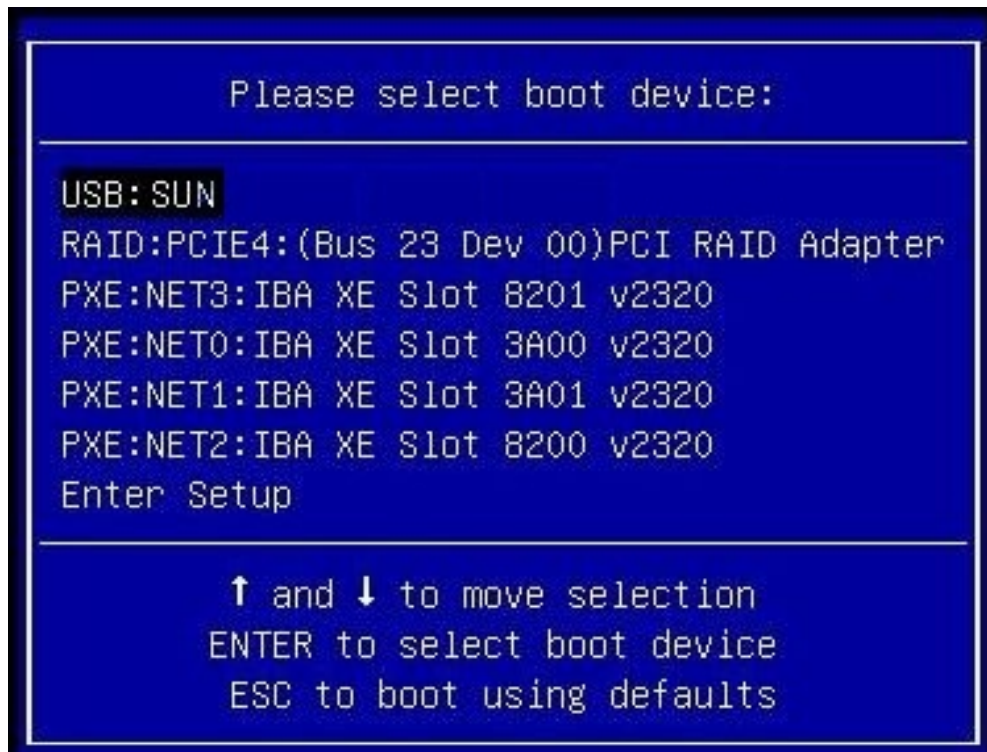
注記 - PXE ブートサポートはデフォルトで有効になっていますが、この手順では無効になっている場合に備えて、PXE ブートが有効になっていることを確認します。PXE ブートサポートが有効になっていることを確認したら、以降の PXE ブートではこの手順を省略できます。

- a. **F2 キーを押して、BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**
BIOS 設定ユーティリティが表示されます。
- b. **上部のメニューバーで「Advanced」を選択します。**
BIOS 設定ユーティリティの「Advanced」画面が表示されます。
- c. **使用可能なオプションのリストから「Network Stack」を選択します。**

BIOS 設定ユーティリティの「Network Stack」画面が表示されます。



- d. 必要に応じて、適切な「PXE Support」設定 (IPv4 または IPv6 のどちらか) を「Enabled」に設定します。
 - e. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。
サーバーがリセットされます。リセット後、再度 BIOS 画面が表示されます。
4. BIOS 画面で、F8 キーを押して一時ブートデバイスを指定するか、または F12 キーを押してネットワークブート (PXE) を指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。表示される画面は、BIOS をレガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのどちらに構成しているかによって異なります。
 - レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - インストールで表示されるブートデバイスメニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプによって異なる場合があります。

UEFI ブートモードの場合は、ローカルおよびリモートのブートデバイスに加えて、各ネットワークアダプタインタフェースで IPv4 と IPv6 の両方のプロトコルが選択可能です。

5. 「Please Select Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたサーバーのネットワークアダプタを選択します。
ネットワークブートローダーがロードされ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルのロードが開始されます。
6. インストールを完了するには、[39 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を手動でインストールする」のステップ 5](#)を参照してください。

Windows Server のインストール後のタスク

注記 - このセクションの手順では、手動での手順を使用して、つまり Oracle System Assistant を使用せずに Microsoft Windows Server オペレーティングシステムをインストールしていることを前提にしています。Oracle System Assistant を使用してオペレーティングシステムをインストールした場合は、Oracle System Assistant が自動的にこれらのインストール後のタスクを実行するため、このセクションはスキップできます。

Windows Server 2012 または 2012 R2 の手動インストールを完了してサーバーをリブートしたら、次のインストール後のタスクを確認し、必要に応じてサーバーに適用可能なタスクを実行するようにしてください。

説明	リンク
追加ソフトウェアについて。	65 ページの「追加ソフトウェアコンポーネントオプション」
デバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールします。	66 ページの「デバイスドライバと追加ソフトウェアの手動でのインストール」
NIC チーミングを構成します。	68 ページの「Intel NIC チーミングの構成」

追加ソフトウェアコンポーネントオプション

Oracle System Assistant には、プラットフォームの追加ソフトウェアコンポーネントをインストールするための `InstallPack` と呼ばれるアプリケーションが用意されています。`InstallPack` には、追加ソフトウェアをインストールするためのオプションとして次の 2 つがあります。

- **Typical** – サーバーに適用可能なすべての追加ソフトウェアをインストールします。
- **Custom** – インストールのために選択された追加ソフトウェアのみをインストールします。

次の表は、オプションの追加ソフトウェアコンポーネントを示しています。

表 2 オプションの追加ソフトウェア

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	統合 RAID コント ローラ
Qlogic のドライバ ウィザードを使用して Qlogic のドライバ (FC、FCoE、NIC、iSCSI) をインストールします。	通常
Emulex のドライバ ウィザードを使用して Emulex のドライバ (FC、FCoE、NIC、iSCSI) をインストールします。	通常
Oracle Hardware Management Pack Oracle Hardware Management Pack には、サーバーの管理や構成に役立つツールが用意されています。これにより、次のことが可能になります。 ■ オペレーティングシステムレベルで管理エージェントを使用すると、Simple Network Management Protocol (SNMP) を介したサーバーハードウェアの帯域内モニタリングが可能になります。この情報を使用して、サーバーをデータセンター管理インフラストラクチャーに統合できます。 ■ 管理エージェントを使用すると、RAID アレイを含むサーバーのストレージデバイスの帯域内モニタリングが可能になります。この情報は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) の Web インタフェースまたはコマンド行インタフェース (CLI) から表示できます。 ■ ホストのオペレーティングシステムで動作し、ホストの BIOS CMOS 設定、ホストのブート順序、および一部のサービスプロセッサ (SP) 設定を構成する、BIOS 構成ツールを使用します。 ■ IPMITool を使用して、IPMI プロトコルを介してサーバーのサービスプロセッサにアクセスし、管理タスクを実行します。	Custom
Windows 用 Intel ネットワーク接続 PROSet NIC チーミングを含む追加のネットワーク機能を有効にします。	通常
LSI MegaRAID StorCLI SAS 3 内蔵 RAID ホストバスアダプタ (HBA) で RAID を構成、モニター、および保守できるようにします。	通常
LSI MegaRAID Storage Manager for Windows SAS 3 内蔵 RAID ホストバスアダプタ (HBA) で RAID を構成、モニター、および保守できるようにします。	通常
Intel チップセットソフトウェアインストールユーティリティ チップセット INF ファイルの更新が必要になると自動的にユーザーに通知し、これらのファイルをインストールするように要求します。	通常

デバイスドライバと追加ソフトウェアの手動でのインストール

InstallPack アプリケーションには、プラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアを手動でインストールするためのインストールウィザードが用意されています。このアプリケーションは Oracle System Assistant に含まれており、My Oracle Support からダウンロードすることもできます。ダウンロード手順については、[「Getting Server Firmware and Software」](#) in 『[Oracle Server X5-8 Installation Guide](#)』を参照してください。

サーバーが Oracle System Assistant を備えており、これを使用してオペレーティングシステムをインストールした場合は、必要なプラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアは自動的にインストールされています。そうでない場合は、InstallPack を使用します。これは、プラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールするための OS (オペレーティングシステム) パックに含まれています。OS パックを入手する方法については、「[Getting Server Firmware and Software](#)」 in 『[Oracle Server X5-8 Installation Guide](#)』を参照してください。

Oracle System Assistant を使用せずに Windows をインストールした場合は、Oracle System Assistant USB デバイスを参照して、Windows operating system/installer ディレクトリを選択します。InstallPack インストールウィザードをダブルクリックして、プラットフォームの追加ソフトウェアおよびドライバを手動でインストールします。[67 ページの「サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする」](#)を参照してください。

次の手順では、InstallPack を使用して、デバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

- [67 ページの「サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする」](#)

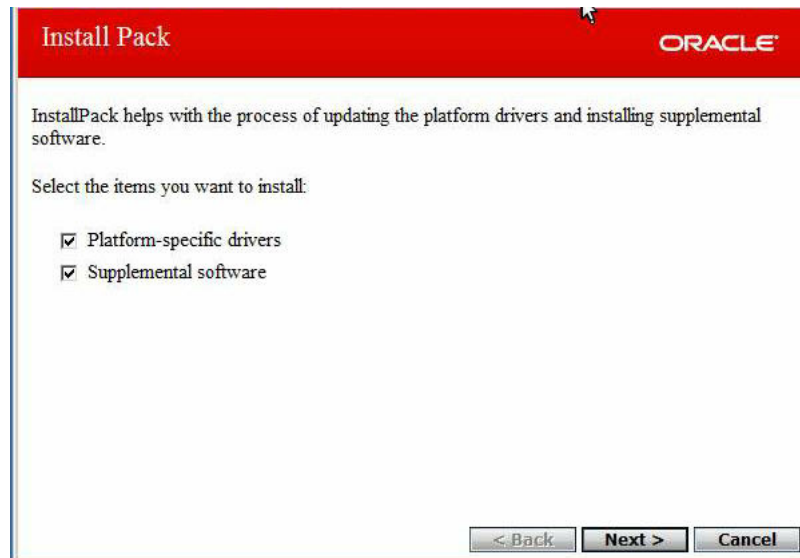
関連情報

- [65 ページの「追加ソフトウェアコンポーネントオプション」](#)

▼ サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする

1. インストールパックウィザードの実行可能ファイル `InstallPack.hta` をクリックします。

「Install Pack」ダイアログが表示されます。



2. 「Install Pack」ダイアログで、「Next」をクリックして、デフォルトのインストール可能な項目を受け入れます。

注記 - 最新バージョンのドライバが確実にインストールされるようにするために、「デフォルトのインストール可能な項目」を常に受け入れるようにしてください。

インストールパックの注意ダイアログが表示されます。

3. 画面に表示されるプロンプトに従い、デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストールを完了します。

Intel NIC チーミングの構成

環境に合わせて Intel NIC チーミングを設定する方法の詳細は、Advanced Networking Services Teaming に関する次の Intel 接続 Web ページを参照してください。

<http://www.intel.com/support/network/sb/CS-009747.htm>

また、使用しているサーバーのネットワークアダプタ用に、Intel のネットワーク接続のユーザーガイド一式を次からダウンロードできます。

<http://www.intel.com/support/network/sb/cs-009715.htm>

索引

あ

インストール

Oracle Enterprise Manager Ops Center

Windows OS, 25

Oracle System Assistant

Windows OS, 26

Oracle System Assistant の使用

Windows OS, 34

PXE ネットワークブートの使用

Windows OS, 59

インストールの種類の選択

Windows OS, 47

オプション

Windows OS, 24

言語の選択

Windows OS, 44

手動

Windows OS, 26

タスクマップ

Windows OS, 12

単一サーバー

Windows OS, 25, 25

特定のオペレーティングシステムの選択

Windows OS, 44

メディアの使用

Windows OS, 39

ローカルまたはリモートメディアの使用, 39

インストール後

Intel NIC チーミングの構成

Windows OS, 68

インストール後の

タスクの概要

Windows OS, 65

追加ソフトウェアのインストール

Windows OS, 65, 66

デバイスドライバのインストール

Windows OS, 66

インストール先

オプション, 23

ファイバチャネル Storage Area Network (SAN)

デバイスの設定

Windows OS, 24

ローカルストレージドライブの設定

Windows OS, 24

インストール先オプション

選択

Windows OS, 23

インストール方法

ブートメディアオプション, 16

オペレーティングシステムのインストール

概要, 11

サポートされているオペレーティングシステム,

13

オペレーティングシステムのインストールの概要,

11

か

構成

Intel NIC チーミング

Windows OS, 68

RAID

Windows OS, 32

コンソール表示オプション

選択

Windows OS, 14

さ

サーバー、電源のリセット, 60

サポートされているオペレーティングシステム,
13

Windows OS, 13

ソフトウェア

インストールオプション, 24

た

タスクマップ

インストール

Windows OS, 12

追加ソフトウェア

Hardware Management Pack

Windows OS, 66

LSI MegaRAID Storage Manager

Windows OS, 66

インストール

Windows OS, 66

追加ソフトウェアオプション

Windows OS, 65

デバイスドライバ

ドライバを必要とする SAS PCIe HBA, 13

ロード手順

Windows OS, 14

は

ブートメディア

要件

Windows OS, 17

ブートメディアオプション

選択

Windows OS, 16

ブートメディアのインストール, 16

ら

リモートコンソール

設定

Windows OS, 15

リモートブートメディア

設定

Windows OS, 18

要件

ウィンドウ OS, 17

ローカルコンソール

設定

Windows OS, 15

ローカルブートメディア

設定, 18

要件

Windows OS, 17

B

BIOS

最適化されたデフォルト設定の確認

Windows OS, 28

ブートモードの設定

Windows OS, 29

H

Hardware Management Pack, 66

I

InstallPack

追加ソフトウェアのインストール

Windows OS, 66

Intel NIC チーミング構成

インストール後, 68

ISO イメージ

Windows OS, 40

L

LSI MegaRAID Storage Manager

Windows OS, 66

P

PXE インストール

Windows OS, 60

R

RAID

構成

Windows OS, 32

U

UEFI

設定

Windows OS, 27

W

Windows OS

ISO イメージ, 40

サポートされているオペレーティングシステム, 13

Windows Server 2012

メディアによるインストール, 35

メディアを使用したインストール, 39

Windows 展開サービス

Windows OS, 26

